

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

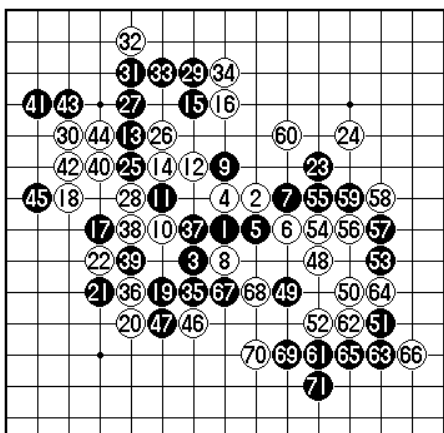
● 第110回 ●

■ 名人戦二次予選

今年も暑い夏が続いているところ、コロナウイルスは全然収束してくれない。連珠界では当然のように名人戦にも影響が出たが、何とか無事開催できそうである。関西予選も通常より約1か月遅く開催された。既報の通り、長谷川九段と飯尾八段が予選を通過した。牧野六段が通過できなかったのが意外だが、スリリングなドラマがあった。当日私は現場にいたので、その様子を詳しくお伝えしよう。最初は一番の番狂わせだったと言っているだろう、林一牧野戦から。

私は途中から見たのだが、ちょうど黒17を打つ時であつた。

黒・林 白・牧野
黒71にて白投了



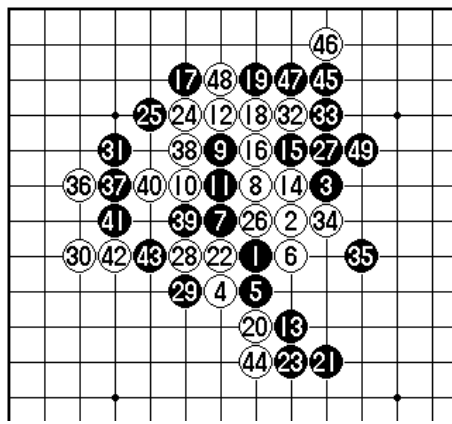
白は着実に止めに行っているのはわかるのだが、何かしつくりこない。黒27と引かれたときには「危ない！」と思つたが、白28で何とか防いでいるようだ。白30の防ぎなどうまい手で、ようやく本調子を取り戻したように見えた。

ところが、である。攻守交替でほどなく白勝ちになると思つていたのだが、黒65と三を引いた局面で牧野六段がうなつていた。

実は白62が大失着で、普通に64に止めておけば何でもなかった。黒65の局面は、62の石が防ぎに何の役に立ってないのがわかるだろう。白66を反対も簡単に黒勝ちになる。牧野さんの通過は一番固いと思つていたので、早くも波乱の予感だ。

もう一局の方は長谷川一飯尾戦で、飯尾八段の猛攻を凌いだ長谷川九段が快勝した。

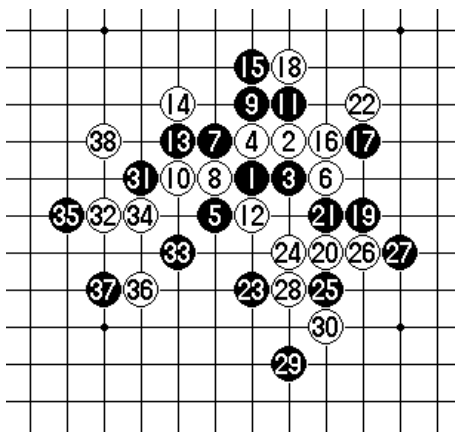
黒・長谷川 白・飯尾
黒49にて白投了



2回戦。長谷川一林戦では波乱は起きず、長谷川九段の快勝。これで一枠は長谷川九段に決まった。

もう一局の牧野一飯尾戦が大熱戦だった。お互いに1局目を負けているので、ぜひとも勝ちたい所だ。

黒・牧野 白・飯尾
白38以下満局



斜丘月共通形となつたが、黒7の変化は黒白とも難しい。黒15と打つて攻勢を取つたが、白16、18と冷静に防がれて一気に満局模様となつた。

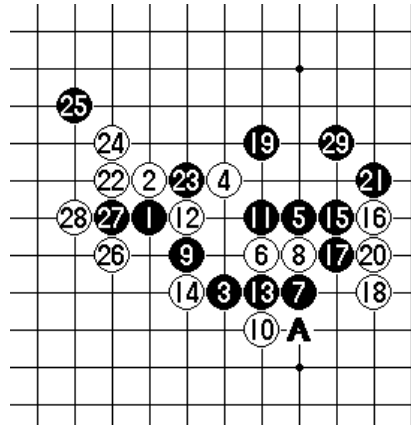
黒31はもつと早く打ちたかった。このタイミングなら白32の外止めだろうから、下辺に進出するの邪魔になる。もつと早いタイミングなら、中止めだったのではないか。白38までがっちり止められて、以下黒勝ちにすることはできなかった。

二局目終了時点で、
二勝 長谷川（決定）
一勝 林

0.5勝 飯尾、牧野
二枚目が大混戦だ。

最終局、林六段が勝てば大波乱の初出場となる。競馬で言えば万馬券、アイドル界で言えば、乃木坂なら和田まあや、櫻坂なら上村莉菜、日向坂なら高瀬愛奈がそれぞれセンターに立つぐらいのことである。（解説すると、それぞれ一期生なので知られてはいるが、センターに立つことはないだろうというメンバー）

さて、本当にもう少しで林六段のA級出場ができたであろう一局を紹介しよう。
黒・飯尾 白・林
黒29にて白投了

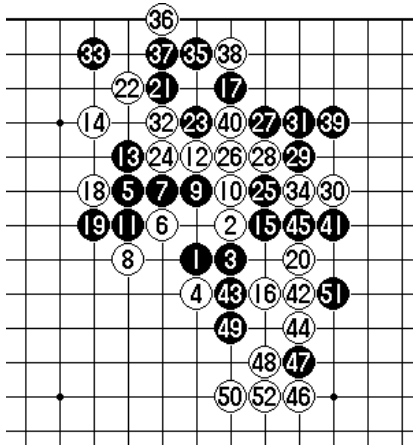


飯尾さんが得意の遊星を指定、林さんがすべて受けて立った一局。当然黒の飯尾さんが主導権を取ると思われたが、勘違いがあったようで自然に防がれて黒勝てなくなった。

白20から反撃に転じ、「ひよつとするとこれは！」とハラハラしながら見守ることとなった。
白26ではノリ手を恐れ

ず27に引き、黒26に素直に上止めをしておけば黒はなすすべがなかった。それよりも、白28の前に一本Aを利かしておくべきで、それなら白有利を維持できた。黒29と打たれて初出場の夢は消えた。

さて、最終局。牧野さんは勝って飯尾さんとの決定戦に持ち込みたい。
黒・牧野 白・長谷川
白52にて黒投了



雲月白4の桂馬バサミに黒5は遊星共通であるが、黒としてあまり選ばたくない五珠ではある。

と言うのも白6と入られた形が長星になっていくからである。黒3の石を活用する意味で黒7はいい所だが、白8が長星定石にも戻そうという一手で、これで黒にいい打開策がない。

黒9に続き黒11を9の一路下に引いていくのが自然な流れだが、それを打つと本当に長星定石に合流する。それでは黒は勝てないので、黒11と別の手で応酬した。ただこの手も白12と打たれると果たしてどうだったか？一瞬黒13で黒勝ちに見えたが、白14の外止めで黒勝ちがない。

黒は苦しくても勝たないといけないので強引に攻めたが、白42からの反撃にあつさり土俵を割った。

牧野六段が落ちたのは衝撃だったが、過去の歴史を振り返ると良くあることだ。こういう経験は積んでまた強くなつていくはずなので、腐る必要はない。